

リニア中央新幹線とナゴヤの未来

講師：株式会社日本政策投資銀行
地域振興グループ地域支援班
参事役 藻谷 浩介氏

演題：リニア開業を見据えた名古屋のまちづくり
日時：平成23年7月19日(火)
場所：名古屋都市センター 11階ホール



皆様こんにちは。藻谷でございます。

それでは、「リニア開業を見据えた名古屋のまちづくり」というお題をいただきましたので、お話をさせていただきます。

【リニアによる利便性の向上】

リニアによって東京—名古屋間の走行時間は、100分から40分に短縮されます。名古屋から、のぞみで京都、あるいはひかりで浜松という距離感です。大阪まで全通すると名古屋—大阪間が60分から20分に短縮されます。豊橋、岐阜まで行くのと同じ感覚です。皆さんの中には、名古屋の繁栄のためにリニアは名古屋止まりのほうが良いと思われている方がいるかもしれませんが、それは大きな勘違いです。最初から大阪まで通したほうが良いと思います。名古屋終点は名古屋にとってあまり意味がありません。物事は必ず両面から見るのが大事です。東京から40分といえば八王子、あるいは鎌倉、横浜、さいたま、千葉となります。この位置関係が、果たして名古屋にとって吉なのか凶なのかということを考えていただきたい。結論からいうと、名古屋にとってかなり吉です。その理由は追々話をしていきます。ただし、成り行きに任せて何とかなるだろうと思っていると足を救われる危険性があります。数少ないチャンスを活かそうとする他の地域に負けるということもあり得るのです。

品川駅から羽田空港までは最速で14分、乗り換えを考慮しても30分ですので、リニアができると名古屋から羽田空港国際ターミナルまで1時間少々で行けるようになります。中部国際空港セントレアも利用客を増やさないといけないのですが、名古屋の人にとっては飛行機への搭乗のチャンスがぐっと広がります。おそらく23時品川駅発のリニア最終便ができると思いますので、22時羽田着の飛行機でも十分名古屋まで帰って来られるようになります。名古屋駅近くに住んでいる人であれば、普通の通勤と同じ感覚で羽田空港まで行けるようになります。リニアの料金は1万円くらいでしょうから値段は少し高めですが、八王子から東京までタクシーで1万円かかることを考えると、“ちょっとタクシーで気張っていくぜ” くらいの感覚で羽田空港まで行けるようになるのです。

【人口変動が語る日本の過去と未来】

リニアの詳しい話に入る前に、その背景となる事実を理解しておかなければなりません。それは、日本の人口の波についてです。国立社会保障・人口問題研究所のデータをもとに、次の5つの時点の人口構成についてお話しします。①今から45年前、東海道新幹線が開業した直後の昭和40年、②20年前、バブルのころの平成2年、③現在の平成22年、④今から20年後、リニア（東京―名古屋間）が開通するころの平成42年、⑤40年後、リニアが大阪まで延伸されるころの平成62年、この5つの時代の人口構成は大きく異なります。45年前、日本で一番人口が多かったのは15歳以上20歳未満の層です。団塊の世代が高校生でした。そのころ75歳以上の人は200万人にも満たない数でした。20年前のバブルのころは、高校生だった団塊世代が40代前半の課長クラスになり、その多くが中学、高校の子どもを抱えていましたので、物を買う人の数が大変多い時代でした。この時期が日本経済の最盛期だったのです。それから20年経った現在、団塊世代は60歳を超え退職の時期を迎えました。この間、日本の景気は停滞の一途で「失われた20年」と言われていますが、そうではないのです。40代前半で、ばんばん物を買っていた団塊の世代が60代前半になり、消費行動がガクッと落ちたのですから当たり前なのです。さらに、リニアが開通する20年後には、団塊Jr世代が50代半ばを迎え、75歳以上の人は2,300万人に迫ります。そして、40年後のリニアの償却真っ最中のころは、85歳以上の人が1,000万人近くになり、日本の人口の最大勢力になるのです。

【オフィスに求める志向の変化】

皆さんはリニア開通を契機に、名古屋駅の周辺にオフィスがどんどん増えると思われるでしょうが、人口がどんどん減っていきますので、日本全体ではオフィスが半分くらい要らなくなります。全世界、いろいろな都市を観察していると、初めは高層オフィスの上階で街を見おろしながら働くことに人気が出るのですが、ある段階までいくと上階が空室になってきます。例えば、シンガポールでは築100年くらいの非常におしゃれな低層の建築物が、どんどんオフィスにコンバージョンされるとい現象が起きています。ニューヨークでもそのような流れになってきています。つまり、空調が悪く、エレベーター移動に時間がかかる高層よりも、低層階で仕事をしたほうがいいじゃないか、商談はカフェでいいじゃないか、と考える人がどんどん増えているのです。

このような話をすると、人口が減る時代にリニアは必要ないと思われる人が出てくるかもしれませんが、全くそんなことはありません。将来的に日本の人口は減少しますが、2050年時点でも、ヨーロッパ最大規模のドイツより多い9,000万人の人が暮らしていると予測されています。ドイツくらいの大きさの国ならば、幾らでもリニアが成り立つようにつくれるし、そしてまた必要なのです。

【名古屋の人口変動の実態】

それでは、名古屋に焦点を当てて人口構成の変化を見てみましょう。今から5年前と5年後の10年間で、名古屋市民は1万人増えると予測されています。ではこの間に、高校生以上退職前、すなわち物をたくさん買ってたくさん税金を納める人たちは、どう変化するのでしょうか。①1万人くらい増える、②全く増えない、③10万人くらい減る、どれが正解に近いと思いますか。実は、③です。正確には9万人減ります。①、②と思った人は、いかに甘いことを考えていたかよくわかるでしょう。日本人全体がこのことに気付いていないのです。なぜ名古屋の税収が落ちているのか、その理由はこれなのです。これだけ納税者が減れば落ちます。そのことをどうしてみんな言わないのか、非常に不思議なのです。つまり人口が増えると見せかけて、旺盛に経済活動をする世代は減っているというのが名古屋の実態なのです。これだけ現役世代が減るのですから誰かが増えないといけないのですが、子どもが増えるのでしょうか。残念ながら子どもではなくて、65歳以上の人がこの間に14万人増えるのです。10年間で34%という驚異的な伸びです。なぜこうなるかという理由は簡単です。就職のために全国から名古屋に集まってきた団塊世代の人が65歳を超えていくからです。また、団塊の世代だけではありません。名古屋は高度経済成長期以前から栄えていた都市なので、昭和初期生まれの人たちも大量に流れ込んでいるため、75歳を超える人も1.5倍、実数で9万人増えるのです。この人たちはもう田舎に帰るわけがありません。こんなに気候がよくて、食べ物がおいしくて、広い家を持っている人たちがこの地を去らなければならない理由が一体どこにあるのでしょうか。

【居住形態の変化とクリエイティブクラスの集積】

リニアが開通することによって、大都市名古屋の居住はどうなるのでしょうか。おそらく、名古屋支店に赴任して、数年後に東京に戻るようになったけれど、名古屋でとても快適な自宅を手頃に購入することができたので、以降は名古屋から東京に通勤するという、いわゆる週末名古屋人が増えるのではないかと思います。ただ、そんなことまでしなくても、名古屋の企業に就職すればいいと思うのですが。

しかし、名古屋にとってもっと重要なことは、名古屋に住んで名古屋で仕事をしながら、非常に利便性の高い交通ネットワークを活かして東京や海外に出撃する、クリエイティブクラス（科学者・研究者、大学教授、アナリスト、芸術家、デザイナー、タレントなど）を増やすことです。それらの人たちを増やすには街もクリエイティブな場所でなければなりません。東京の狭いところに住むことがばかばかしくなって、魅力的な場所があれば移り住みたいという人を取り込む努力が必要です。名古屋にとって脅威になるのは飯田です。飯田はとても自然が豊かで、リニアができれば東京まで30分、名古屋まで10分ですから、飯田にスタジオを構えて各方面に出撃していくクリエイティブクラスが数多く移り住む可能性があります。名古屋は、それに負けない魅力的なまちづくりをリニア開通までに

行わなければなりません。

【飛躍する名古屋のビジネス環境】

東京、大阪、全国から名古屋に来るのが極めて早くなるので、単なる支店、営業所は絶対増えないと思います。品川営業所管轄でも十分ですから。そうすると、名古屋にとってリニア開通は一体どのような意味があるのでしょうか。当たり前のことですが、逆のことが言えるわけです。愛知に本社がある会社にとっては、東京に本社を移転させる必要性が全くなくなります。東京に本社ビルを構えて高い交通費と社宅費を払うよりは、リニアの料金を払ったほうがはるかに安いのですから。また、大阪まで20分で行けるので、大阪営業所をつくる必要がありません。愛知の企業は、本社ですべての仕事ができるという状況になるのです。ですから、先程申しましたように、リニアは大阪まで早期に整備しなければなりません。名古屋止まりだと、東京の企業が名古屋営業所を廃止して東京に統合するだけという状況に陥る恐れがあるのです。リニアは、東京本社の企業にとって便利だからつくるのではなく、名古屋本社の企業にとって便利だからつくるのです。名古屋が従来と比較できないほど便利になる。東京の周辺都市よりも名古屋が便利になるのです。東京まで40分、大阪まで20分、空港はセントレアがあるし、羽田まで1時間少々。こんな便利なところがあるのでしょうか。しかも、土地代が非常に安い。モノづくり企業はもともと名古屋に本社を構えることが多いのですが、商社、ソフト、各種コンサル、ありとあらゆる企業が、名古屋に本社を置くのが一番合理的だということになるのではないのでしょうか。名古屋は、それら企業を本気で誘致できるような、魅力的なまちづくりを真剣に考えていかなければならないのです。

【名古屋の観光、課題と処方】

次に、観光について考えてみます。リニアによって名古屋の観光客は増えるのでしょうか。実は開通したその年だけお客が増えて翌年から減るとというのが、これまでの鉄道インフラの共通のセオリーです。さらに、日帰り出張者が増えるという大問題が発生します。名古屋が好きだから泊まりたいという人を増やさない限り、リニア開通は市内の観光や宿泊業にとって大打撃になります。

はっきり申しますと、名古屋の市街地は極めて個性がない。個性がないところが個性だという話まであります。ビルに個性がなくどこの場所かよくわかりません。名古屋の特徴は広い道路だと言われていますが、道路の広い都市は日本に幾つもあります。また、街路樹が刈り込まれていて言い訳程度に立っている状態です。個性が出てきたかなと思って機会あるたびに大須などを探検していますが、名古屋の人にとってはあれでおもしろいのでしょうか、東京や大阪から見るとあまりおもしろくない。“あれくらいの街だったら大阪には100個くらいあるぞ”と思ってしまいます。泊まりたいという人を増やすには、もっと街に個性がないと駄目なのです。

名古屋周辺にはすぐれた町並みが多くあります。古いものだと、高山や白川郷、足助、妻籠、馬籠、美濃など。新しいものだと、おかげ横丁、おはらい町など。2,3時間行った先には非常に魅力的なまちが点在しています。東京周辺にはほとんどありません。また、焼き物で有名なまちも多い。瀬戸や常滑、多治見などを探訪すると、なかなか味わい深い。このような周辺の都市と連携しながら、その魅力を名古屋のまちづくりに活かさない手はないと思います。東京から京都というのは外国人観光客のメインルートです。彼らが途中下車して立ち寄る地域というのは、経済活性効果が非常に大きい。名古屋は日本のど真ん中なのに、なぜか地元限定の遊び場所にしかなくなっていません。名古屋ロイヤルな地域というのは、南は伊勢志摩、北は下呂や中津川、西は大垣、東は豊橋くらいまでで、それ以外から名古屋に来る人は非常に少ない。しかしリニア開通によって、世界に開かれた魅力ある集客都市に生まれ変わる千載一遇のチャンスが廻ってきました。準備期間はまだ15年以上あります。名古屋は、とにかく人材が豊富で、全国に先駆けておもしろいことをやってきましたが、その発信が苦手です。また、邪魔する人材も豊富で、それらをつぶしてしまうという悪癖もあります。この間、名古屋城へ行きましたら、名古屋おもてなし武将隊というイケメンが鎧を着て歩いていました。それを目当てにしたお客さんが多く、追っかけもいました。あんなおもしろいことをやっているのに、名古屋ローカル以外ではほとんど報道されていません。非常に残念です。

名古屋の街に個性がなく無機質に感じるのは、そのように誘導してきたこれまでの行政の発想が問題ですが、それよりも施主の責任が大きいと思います。施主のデザインセンスの大刷新が必要です。名古屋駅前には若干おもしろいビルが出てきていますが、全体的に言うとデザインが古い。だから街として非常に平板に見えてしまいます。名古屋の人は、名古屋駅前に高層ビルが建ち、名古屋も都会になってきたと思っているかもしれませんが、世界的にみると魅力的な街とは言えない状況です。例えば、街の中に緑と川が見えません。緑の嫌いな人が街をつくったのかな、という感じの街になっています。新幹線を降りたときに緑溢れる目抜き通りあるだけで印象は全然違います。また、なぜこれだけ高容積にしなければならなかったのかと疑問に思います。行政と建築する人たちが手を組んで、“街をきれいにするぞ”と思わない限り、魅力的な都市にはならないのです。

【ソウルを通して名古屋のまちづくりを考える】

写真をお見せします。名古屋と本当によく似た街だと思える韓国のソウルです。ソウルは、国際集客観光交流都市で、一国の首都ですが、歴史的には名古屋と大差はありませんし、日本人がまじめに都市計画を行ってつくった街なので似ています。ソウルのまちで最近の大きな話題といえば清溪川(チョンゲチョン)です。現大統領の李明博(イ・ミョンバク)が市長のときに、高速道路を取り払って川を再生させた事業です。冬だったということもありますが、はっきり言って、あまり潤いのある景色ではありませんでした。しかし、このような世界にアピールするミーハーさというのはとて

も大事なのです。名古屋だったら、これくらいのことはやろうと思えばすぐにでもできるのではないのでしょうか。

ソウルの商店街は昔に比べるときれいになりました。その佇まいや雰囲気は、東京というよりは札幌や名古屋に近いように感じます。でもソウルの場合、飲み屋街がとにかく巨大で、独自の安くておいしいコンテンツが豊富です。“ソウルに来たから飯を食いにくぜ”と思わせる街の作り方が非常に巧みだと感じます。名古屋も独特の食文化を持った都市です。東西日本の味が融合した独自のおいしいものがたくさんあります。ですので、それら食文化を積極的に活かして、“名古屋に行ったら飯を食わなきゃ”、そして、“みんなが飯を食っている楽しい飲み屋街に行かなきゃ”と思わせる仕掛けづくりが必要だと思います。

リニアが開通するまでの期間は、少なくとも今の川をきれいにするとか、並木を整えるとか、歩いて楽しい繁華街を再生するとか、そういうことに取組むよいチャンスではないのでしょうか。このような基本的なことが、世界的な集客アピールになるのです。

【シンガポールを通して名古屋のまちづくりを考える】

最後に、シンガポールの写真をお見せします。シンガポールは、名古屋よりもはるかに本格的で非常によくできた街です。夜景がきれいに見えるようプロデュースされています。逆に言うと、歴史が浅いために古いものがほとんどなく、昼間見ると安っぽさが出てしまうので、夜景がきれいな街になるようにものすごいエネルギーを費やしてきたのです。夜、川沿いを歩いていると、みんなビールを飲んで食事をしています。こういうところでビールを飲みながら一晩過ごす、出張者には忘れがたい思い出になります。また、クルーズしながらライトアップされた街を見つつ、おいしい中華料理を食べることもできます。ではなぜ、シンガポールは夜景にこだわるのでしょうか。当たり前のことですが、夜景がきれいだとそれを見るために、みんなもう一泊していくからです。ですので、名古屋も夜景がきれいな街を演出できれば、“リニアで通るだけでなく、せっかくだから一泊してみよう”と思われる街になるわけです。

また、シンガポールは川沿いがすべてオープンカフェになっています。全部民間が運営しています。日本では、川沿いは公共的な空間だからオープンカフェはけしからんという信じられない議論がありますが、文化会館などにあるカフェと同じように、賃料を払えば使ってもいいのではないのでしょうか。シンガポールでは、飲食業をしていない公共空間はありません。主だった公園には必ずカフェがあります。

最後にこの写真をご覧ください。昼間見ると緑が非常に多い街でもあることがわかります。要するに、これくらい人工的な街でも、努力すればできるということなのです。

【地域ブランドとコンパクトなまちづくり】

リニアが開通すれば、名古屋はますます日本の中心であることが浮き彫りになってきます。そのためのために、名古屋の伝統に支えられた、名古屋でしかつくれないハイセンスで少量の高単価ブランド商品づくりに取り組んでほしいと思います。また、値段が高くても本当にいいものを選びと選ぶ、そういうまち文化を再構築してもらいたいと思います。そして、どんどん減っていく現役世代を、オフィスビルをつくって奪い取るようなまちづくりではなく、裕福な高齢者やアジアの中上流層が、緑溢れる美しい街並みやきれいな夜景、おいしい食事、そして、東京にはない名古屋独自のブランド価値を求めてやってくるような、そんなまちづくりをしてほしいと思います。

過去の計画の延長で、無機的で密度の薄い市街地づくりを続けるのではなく、オフィスよりも家、大型店よりも個店、ホールよりも病院・介護施設・学校が集約するコンパクトで個性と賑わい溢れる街を是非つくっていただきたい。コンパクトといっても名古屋は広いので、名駅、納屋橋、栄、大須、その先の千種、大曾根、平針など、それぞれの地域に魅力ある市街地が点在するようなまちにしてほしい。名古屋の規模ならばきっとできるはずです。名古屋の皆さんがやらないと、福岡が先にやってしまいます。

【日本がなくとも栄える名古屋】

最後に一つ申し上げます。名古屋は、これまで地味に、騒がず、地の利を活かしてやってきました。ですが、それだけだと日本全体と運命共同体になってしまいます。名古屋を無視して日本を縦断することは無理なので、日本の経済を即停止させようと思えば東京よりも名古屋を壊したほうが早い、名古屋はそのような状況に置かれているがゆえに、日本全体と運命をともにしてしまうのです。つまり、日本全体が何となく不活性になり、日本全体の人口がどんどん高齢化していくと、名古屋も一緒になって勢いがなくなっていくと思います。事実、この20年間、名古屋は随分産業が栄えたはずなのに何となくぱっとしない。なぜか、日本全体の経済と連動しているからです。

私は名古屋の人に言いたい。“日本がなくとも栄える名古屋”を目指すべきであると。交通の要衝だからということではなく、名古屋自体にどうしようもなく強力な磁力、発電力、魅力があるために、人と産業が集まってきて、その相乗効果で栄えるような、日本全国が不活性化しても名古屋は大丈夫ですという、そういう街を是非目指していただきたい。それが実は、リニアを活かす道なのです。名古屋が単なる通過点ではなく、ここが人や文化を発進する中心地となれば、リニアは、名古屋を起点に東西に出撃できる強力な武器となるのです。

長時間、ご清聴ありがとうございました。